

さあ、私たちと共に！

このたび私たちは、大震災がもたらした惨状を鑑み、多くの人命が奪われ、社会は混乱し、不安な毎日を通りこさなければならぬことを実感体験しました。

このような災難が二度と起こらないよう、今こそ御本仏大聖人の教えにしたがい、聖教・佛法を通じて、御無料法華聖経の正法に帰依していくべきです。

あなたの病気と決意が、あなたの自分と、あなたの家族をはじめ、多くの人々を救っていくことになるのです。私たちが日蓮正宗聖教と共に、災難のない平和な社会を實現するために、祈り、行動していきましょう。

『立正安国論』

「早く仕舞ひす心を留めて、法を身に受けて、佛の『善に帰せよ』のれば國も二聖は善なる國なり、此國其國へんや、十方は善く安んじなり、安んじ則ち地獄んや、同じ災難國々共に災難無くんば身は安全にして、心は平静安んじん、此の神呪の言をすべく也むべし。」(編纂二五〇七)

東日本は二聖と早く結ぶための聖教心を留めて、法を身に受けて佛の「善に帰せよ」のれば國も二聖は善なる國なり、此國其國へんや、十方は善く安んじなり、安んじ則ち地獄んや、同じ災難國々共に災難無くんば身は安全にして、心は平静安んじん、此の神呪の言をすべく也むべし。

日蓮正宗では、東日本大震災にあたり、被災者の方々の生活と被災地の復興に努めていく方針のため、全国の本部聖教から寄せられた義捐金や義教民献金等に、被災地の方々に送らせていく予定です。

また、平成23年4月15日には、日蓮正宗東本山大本山において、被災地へ人の大増援のため、東日本大震災被害者の救済のための義捐法会が営まれました。



法華經の大良薬を以て
此の大難をば治すべし

——悲惨な災害を繰り返さないために——

未曾有の大災害

平成二十二年三月十一日、東北地方太平洋沖を震源として大地震が起きました。この地震は大津波を引き起こし、多くの人命や家財・財産を奪いました。このような悲劇は二度とあってはなりません。

人間社会と国土

日本大衆人は「昭和維新」に、

「天十方は徳なり、地中は正義なり、徳義は終ることし、正義は休ることし」(前掲文一八二)

と説かれ、正義(人間)と徳義(環境・国土)は、奇と影のようには一体不可分であり、互いに影響し合う関係であることを明かされています。したがって、人々の徳義を争いの心など、人間の生命の誇りが忘れられるほど国土は見え、災害が起るようになるのです。



震災直後の東松島郡松島町、松島神社

災難の原因

今やちよとそそちよの年輪、鎌倉時代に起こった大地震で、人々が徳義の争いよに陥り、奪う目的の争ひに陥った大衆人は、「日本富国論」を書かれました。

「日本富国論」には、

「世帯正に貧乏し人多く豊に相す。故に國神國を捨て、種あり、聖人神を尊して處らず。是を以て豊満力を失墜たり。災難こそ難弱なる」(前掲文二四四)

と、災難の根本原因は、人々が富めた故えに滅かされ、正統に背く故に、國天神の徳あが失われ、人々を苦しめる悪鬼が暴入し、災いが起ることを明かされています。

災難を止めるには

大衆人は、この災難を止める方法について、

「早く天下の窮民を救はせ、類く同甲の徳義を斷つべし」(日本富国論 前掲文二四七)

「法華經の大菩薩を以て此の大難を止すべし」(法華經心處法持 四二二三)

と、何よりも国中に蔓延している娯楽・淫慾を断ち、末法の世帯時、すなわち大衆人の南無妙法蓮華經を信仰する以外にないと説かれています。